

通信稲穂 34号

発行・2016年2月

発行者・宮田兼任 (有機農園みやた)

住所 〒399-8501

長野県北安曇郡松川村 627

TEL 0261-62-8630 090-2431-8817

はじめに

今年の冬も終わりに近づき春めいて来ました。3月は湿った雪がドツサリ降った「春の嵐」が押し寄せたりで育苗ハウスが大変です。雪対策はハウス毎に支え棒をいっぱい立てて凌ぎました。それにしても今年の夏も一段と暑さが厳しいのでしょうか？

去年の稲刈りは、3人の友人が私の体を気遣って交替で仕事に来てくれました。無事に収穫出来て本当に有り難いと思いました。肺の手術から2ヶ月では仕事が出来ません。この冬は親しい方々の奨めもあり近県のラジウム温泉に通っています。おかげで大分体調が整って来た気がします。これから田植えの季節です。今準備作業をしています。除草が完了する6月まで無事に乗り越えたいと思っています。

それにしても地球温暖化が深刻化する下での農作物への影響とTPP推進にともなう農業と食料の行く末が一段と気掛かりになって来ました。

これらは毎回通信に書いて来ましたが、もう一度私の思いを整理するために考えてみました。

◎温暖化と農業と食料のあり方

温暖化で稲に変化が…その対応策は…。

穂が付いても猛暑のため稲は体力を奪われ、稔りが充実しません。粒の中が空洞化して白色粒や「空つ穂」が増えています。

国などの機関で温暖化に強い稲の開発が行われているようですが、品種改良には遺伝子組み替えが有効としているようです。しかし“生命の奇跡の成り立ち”を人の都合で作り返すのは納得が行きません。科学汚染と温暖化で生態系破壊が進んでいますが、それに拍車を掛ける気がします。民間の温暖化対策は自然の成り立ちに向き合い「耕種的技術」を模索しています。私もそうした方法で試そうと準備しています。それは私たちも猛暑になると「熱中症」で体調不良になりますが、病気や熱中症になり難い人の基本は消化器系の強さがあります。植物の場合も養分を吸収する根の状態が決まります。動物の小腸も植物の毛細根も毛が健康であれば、充実した体が得られると言われています。お腹の中と同じ様に根が宿る土壌の有り方に体力維持の秘訣が有りそうです。そのためにもどうするか。結果は9月に判明するでしょう。

もう1つ異常があります。温暖化との関係は判りませんが、全国的に「雑草稲」と呼ばれる古代種のような「稲」が増えて来ました。収穫すると「異物」として排除しなくては市場に出せません。乳白の玄米と雑草稲を取り除くには高額な機械が必要になります。慣行栽培では除草剤を増やすような指導が行われているようです。

そんな中、まもなく減反政策も終わりますが、一般市場の米価は作れば作る程ダブルツイテ値下がりがします。自然環境の異変とTPPによる輸入米の激増で農家は本当に大変な事態となります。

◎ TPP 推進の動きから考える 食料と農業の事

1、遺伝子組み換え作物の作付け問題

近年、食料も地球規模で流通して市場を覆い尽くす程です。「工業製品」化した加工食品は圧倒的に巨大企業が担っており正に食料支配です。筆頭はアメリカ・モンサント社の遺伝子組み替えです。TPPに合わせて国内作付けが時間の問題になりそうな動きが出てきました。すでに世界規模で作付け面積が拡大しており、日本の農水省も10数年前から既に作付けの方向で動いていました。試験栽培に成功し実際の作付けを開始する段階で、市民の猛反対があり幾度も断念しているのが現状の様です。徹底した反対運動が無ければ日本は作付けが広がっていた事になります。

作付けが始まると花粉が飛び、狭い日本ではアット言う間に普通の作物に受粉し、交雑の拡大が止まらなくなります。私たちのように無農薬で農業をしても、別の汚染を受ければ安全な作物と言えなくなります。それは放射能汚染と同じで、有機農業が成り立たなくなってしまう。

2、「世界流通」の食の安全性と日本

そして食べものとしての安全性を見ると、世界規模の流通となれば遺伝子組み替えと共に農薬と食品添加物を多用する事で安定した「品質」を保持し流通に載せる事が出来ます。食品企業にとって必須条件と言えます。食肉関係に至っては抗生物質やホルモン剤も欠かす事は出来ません。例えクローン肉であっても私たちは殆ど選ぶ事が出来ないまま日々“食べさせられている”事になります。そうした食べ物で子育てをするので。野生動物も疑いもなく子育てに

人の手が加わった怪しげな物を与えて居ますが心が痛みます。

さりとてTPPなど更なる「貿易自由化」で日本の食料自給率は底を着く程下がります。海外の食料に殆ど依存する道を選ぼうとしています。食べ続ける事の危うさを知っても知らなくても、一度輸入が途絶えたら飢餓の国へと急転です。余るほど輸入して記された「賞味期限」とやらで廃棄です。いつか事の重大さに気付くでしょう……。食料と農業を大事にしない国は「経済大国」とか「先進国」と言っても結局「強がり」のように見えてきます。

世界トップクラスの農業使用国である日本、国は農家を廃業に追い込むのでは無く、安全を最優先して“自国の食料は自国で賄う”国へと是非舵取りを願うところです。日本は農薬の規制も無く原発も推進しています。遺伝子組み替えも国として推進するのでしようか。